

潜入!

キラリかがやく!

地理のお仕事図鑑

行政機関で働く

国の報告書をつくる

2015年6月16日、2015年版の「首都圏白書」が閣議決定された。この首都圏白書は毎年発表され、現在の首都圏の状況や抱える問題、そしてこれからの首都圏のあり方等についてまとめられている。

この白書によると、人口が増え続けてきた首都圏でも2015年の4360万人をピークに人口が減少に転じるとされる一方、高齢者人口は今後急激に増えると推計されている。当白書は、人口減少社会において「高齢者の一層の社会参加を促進することにより、社会を支える活力の維持が可能となる」としている。

この首都圏白書を作成しているのが、国土交通省都市局だ。

今回のキラリかがやくお仕事人は、東京都の職員で現在は国土交通省 都市局 都市政策課 都市政策調査室に出向中の蛭田哲平さん。地理のおもしろさやお仕事に地理がどんなふうにかかっているのかについて、お話をうかがいました。

◆ 地理学科に進んだ理由はー

地理との出会いは小学校のときの社会科の授業です。担任の先生が授業で地図帳を使った地名当てクイズをよくしてくれました。そのクイズを解くことが当時とても好きだったのです。そのおかげか、日頃から地図帳を見るという習慣が身につく、自然と地理が好きになりました。中学校・高校でも得意な科目、親しみのある科目で、旅行好きということもあり、大学でもぜひ地理を勉強してみたいと思い、進学を決めました。

大学では都市地理学を専攻しました。3年次にゼミで墨田区の密集市街地、京島、向島の防災まちづくりについて研究・発表し、卒業論文では、国立駅周辺のまちづくりについて研究しました。

大学時代に地理学を研究して感じたのは、大学での地理は小学校、中学校、高校で習った地理とはまったくの別物だということです。それまでは地図帳を見るとか、気候がどうなっているのかとか、どの地域で何がとれるのだとか、そういったことを知るのが楽しい、いろいろな世界を見ることができるというので好きだったのですが、大学では、非常に専門なこと、ある一つの地域をほりさげることが中心で、大学の4年間だけでは地理学の全体をやれたという意識があまりもてなかったのです。そこで、大学院に進学し海外の研究をしてみたいという思いが強くなりました。そして大学院に行ったからには必ず海外に行こうと決め、大学院時代には1年間ドイツに留学し、社会主義を経験した旧東ドイツ地域の都市ライプツィヒが再開発によってどのように変化しているかを研究しました。行政がてこ入れしてお金をかけて都市の再開発をしている地域が実際にはどう変わってきているのかを、何日もかけて街を歩き、調べていきました。

◆ 東京都に入庁した理由はー

大学や大学院での研究を生かして都市の再開発やまちづくりに取

り組みたいという思いがあったためです。

東京都では都市整備局に配属され、都営住宅の委託管理を行っていました。都市整備局に2年配属された後、2015年4月1日より1年間、現在の職場に出向という形で配属されることになりました。

将来的には東京の都市づくりに携わりたいと思っています。

◆ 地理のおもしろさはー

自分自身の世界が広がるところです。自分の知らない世界、日本にいたらわからないような世界が、小中高で使っていた教科書から得られ、得たことが後に実際に自分の目で見るができる、というところがおもしろいと思います。私もドイツに留学中、シェンゲン協定の恩恵を受けて15か国くらいまわることができたのですが、教科書で見たことのある風景に出くわしたとき、ここは高校の教科書で見たところだと感動したのです。実際に見ると写真で見ていたときはまた違う感動というのがありました。それに、教科書に載っていない風景もたくさんありますよね。それを見て、「こういう世界もあるのだな」と知ることができるのも、地理のおもしろいところだと考えます。

◆ 地理はお仕事にどのように生かされていますかー

地理だけに限ったことではないと思いますが、論文を書いていくなかで自分で表やグラフをExcelでつくってきたことが、現在の仕事である首都圏白書の作成に大変役だっています。図表をスピーディーに、かつ間違いのないようにつくる。統計データに合わせ、そのデータが最もわかりやすく見える表現でつくることのできるのも、地理で学んできたことを生かしているからではないかと思っています。

さまざまな統計資料を使って、現在の首都圏の状況を説明していくという点では、まさに地理学で研究してきたことと同じだと感じています。図表をつくり、どのような特徴があるのか、地域的な偏りがあるのか等を分析し、今後どのような政策ができるのか考えるのは、まさに大学・大学院時代に学んだことと重なります。

◆ 地理をやっていてよかったことはー

地図を見る習慣が子どもの頃からあったので、道に迷わないことです。もちろんスマートフォンの地図アプリも使いますが、今だいたいこの辺りだなとか、今北に向かって歩いているな、というのはスマホを見なくてもすぐにわかりますね。

◆ 高校生へのメッセージ

知らない世界を知ることによって貪欲になってほしいと思います。グローバル化が進んでいて、国内だけでなく海外に行くことも容易になっている時代ですから、世界の人々とも知り合うチャンスは非常に多くあります。今後視野を広くもって、時間のあるときに自分の足で海外に出て、世界中を見てほしいですね。今まで自分が培ってきた価値観とは違う価値観に出会えると思います。



2013年、大学院を卒業後、
東京都に入庁。
2015年4月より国土交通省（現
在の職場）に出向中。

スポーツが好きで、週末はフットサル
やサッカーで汗を流しています。



首都圏白書

■首都圏白書がつくられた背景

首都圏白書は、首都圏整備法（昭和31年法律第83号）第30条の2の規定にもとづき、首都圏整備計画の策定及び実施に関する状況について、毎年国会に報告しているものです。

首都圏整備法がつくられた背景には、高度経済成長期に大都市で人口が増加し、産業が大都市に集中するようになったことがあります。交通渋滞、住宅の問題、環境の問題等が大都市の問題として生じてきました。そのような問題を解消するためにつくられたのが、首都圏整備法なのです。この法律には、東京都心部に一極集中している機能を周辺に分散させるという目的があります。

例えば、図のような業務核都市を配置・整備し、そこに東京都心部に一極集中しているさまざまな機能を移転させようという動きがあります。さいたま市には中央省庁の出先機関が集まる合同庁舎や大型多目的ホール、商業施設が集まるさいたま新都心が整備されました。千葉市の幕張や横浜市にも大規模な展示場・国際会議の会議場が設けられました。その他の都市も一つ一つ拠点をみると、事業所や従業者数も増えているところが多いのです。

交通インフラの整備というのも重要な点です。首都圏中央連絡自動車道（圏央道）・東京外かく環状道路（外環）・首都高速中央環状線の3環状道路の整備の進捗に伴い、東京都心部への通過交通が減少し、慢性的な渋滞が解消されてきています。

2015年3月には、首都高速中央環状線が全線開通しました。これにより、中央環状線内側の利用交通量は約5%減少、渋滞損失時間は約5割減少しており、東京都心部の渋滞解消に大きな役割を果たしています（東京都建設局・首都高速道路株式会社、2015年7月発表）。

■これからの首都圏

現在の日本は、少子高齢化が進み、人口減少の時代に入りました。そのようななかで首都圏だけでなく大都市圏、地方も含めてどのような形で活力をもって、日本の社会、経済を維持・発展させていくかについて国土交通省でも有識者委員会等を通じて検討しているところです。

今、首都圏、大都市圏でいわれているのは、「コンパクトシティ」という考え方です。富山市の取り組みなどがとくに有名です。人口が減少していくなかで、地域の活力を維持しながら、生活機能を確保するため、都市としての機能をよりコンパクトにし、かつ公共交通と連携したまちづくりを進める「コンパクト+ネットワーク」の形成が重要になってくると考えられています。もう一つは災害に強い都市づくりです。大地震が来ても被害を最小限に抑え、その後できる限り早く日常を取り戻せるような都市をつくるのが課題です。

また5年後に東京オリンピック・パラリンピックが開催されますが、オリンピック・パラリンピックがゴールではなく、その先を見据えた都市づくりをしていかなければならないのです。

お仕事ココがうれしい!

首都圏白書が閣議決定され、世の中に公表されると、新聞に取り上げていただくことがあります。新聞に載るような仕事ができるということはなかなかないことだと思うので、そういった点では非常にうれしかったところですね。

お仕事ココが大変!

首都圏白書は閣議決定を経て、国の報告書として出される資料になりますので、国民の皆さんが非常に興味をもっている報告書です。ですから誤った内容を出すということは決して許されません。スピードも求められるのですが、同時に正確さも求められます。この二つを両立するのは大変なところなんです。しかし、いろいろな方に参考・活用いただくものですから、スピードを意識しつつ、十分すぎるくらい慎重にやるように心がけています。

※首都圏白書においては、「首都圏」とはとくにことわりのない限り、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県をさす。

1日のスケジュール

9時00分 早めに登庁。メールチェックや情報収集
9時30分 始業
10時00分 調査を委託している会社との打ち合わせ
12時00分 昼休み（ランチ）

普段は、自宅からジャーサラダを持参しています。たまには、虎ノ門、赤坂見附、銀座まで足をのぼし、ランチしています。

13時00分 首都圏白書の図表の作成、文章の修正
18時15分 終業
19時30分 退庁

首都圏白書作成のピークとなる4～5月はもっと遅くなることもあります。

首都圏白書作成の1年の流れ

■8月～9月

次年の首都圏白書第1章「首都圏をめぐる最近の動向」の核となるテーマを検討していきます。現在の首都圏において、重要で対策が求められるテーマを設定します。このテーマの設定が、首都圏の現状を伝えるのにとっても重要です。

■10月～1月

8月～9月で検討したテーマを選定、素案を策定し、室内の承認を得ます。承認を得た後、テーマに関するデータを収集し、骨子案を策定します。その後、都市局幹部の承認を得ます。

■2月～3月

本文の素案を作成していきます。

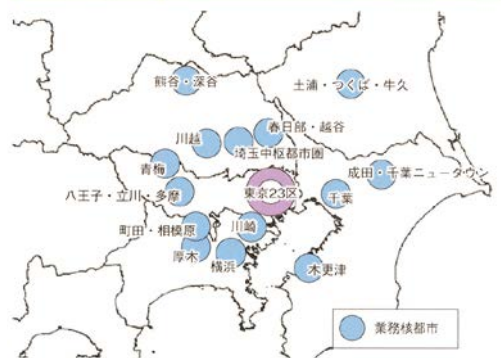
■4月～5月

本格的に作成に入っていきます。1年で最も忙しいときです。首都圏白書の図表や文章の作成・修正を行います。より正確でわかりやすい図表と文章にするため、最も気をつけるところです。ときには議員会館に赴き、国会議員へ報告や説明を行います。また、他省庁との見解統一のため、閣議決定前に白書の内容を確認してもらう各省協議も行います。

■6月中旬

閣議決定。国土交通大臣が記者会見で公表します。

図表2-7-2 業務核都市の配置



資料：国土交通省都市局

図 業務核都市の配置

〔平成27年版 首都圏白書〕p.88より

★取材を終えて・・・

地理で身につけた図表をつくる力・読み取る力・図表から考察する力などの技能が、現在のお仕事に生かされているという蛭田さん。

人口減少社会に入った日本で、私たちはどのように活力・経済を維持していくのかは大きな課題です。これからの日本を考えていくうえで地理を学ぶことは重要であると改めて感じました。